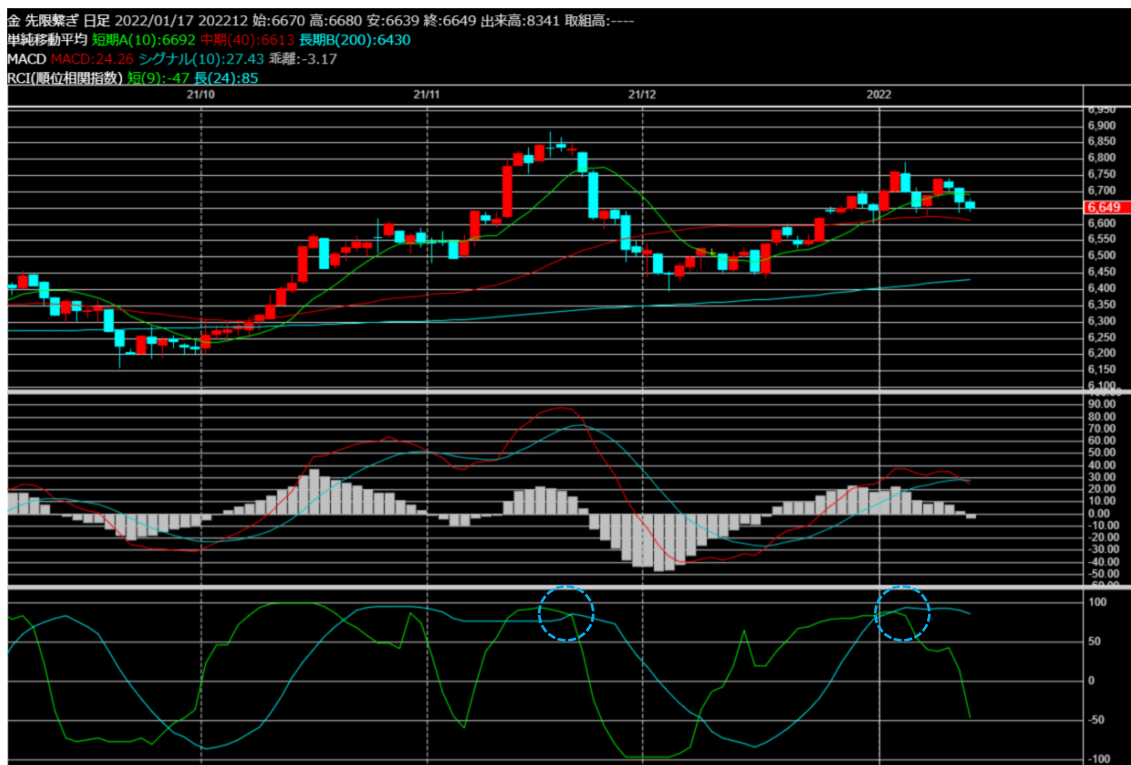


<金標準先物、3月の利上げ確実で戻り売り相場・・・>



(出所：オアシス)

FOMC 議事録、失業率で先週は3月の利上げの思惑が強まった状況下で、先週はパウエル FRB 議長が上院議会銀行委員会で次期 FRB 議長の指名承認公聴会が実施され「インフレ高進の抑制と景気拡大の持続に必要なあらゆる措置を講じる」と言明、アトランタ連銀も「3月の利上げ開始が適切になると考える」と発言している。また消費者物価指数（CPI）は前年比7%と1982年6月以来、コア部門前年比でも5.5%で1991年以来の高水準を示すなど、3月の利上げを疑う余地がない状況となり、短期2年債の金利は0.968%まで上昇するなど、早期の利上げを織り込む動きを見せている。

特に金は金利を生まない商品であり、金利上昇では妙味が低下し、金市場から資金が逃避する動きを強めて来る。ただ CPI が上昇しており、インフレ率の高まりが金の緩やかな下値追いを演出している。そのため今週の金標準先物は6700円に戻る事無く、6600円を割り込む可能性が高まると予想され、直近の安値6627円を下回る戻り売りの傾向が強まる値動きに思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足をMACDとRCIで見ると、MACDではMACDが下げながらシグナルを下回るなど、基調の弱さを示している。またRCIでは、短期が下げながら、長期も切り下げだすなど、弱気に傾いたオシレーターを示している。そのため40日移動平均線が位置する6613円を下回る可能性が高まったと予想される。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 328,000 円(2022 年 1 月 17 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 33,000 円(2022 年 1 月 17 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>